

# 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

大台町教育委員会

令和3年10月

本年5月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、8月31日に文部科学省から公表されました。

調査結果や本町における児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果、今後の取組について以下のとおりまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的としています。調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることも考慮しながら、今後の教育の一層の充実を図ってまいります。

## 1. 調査の概要

### (1) 実施日

令和3年5月27日（木）

### (2) 調査参加人数

小学校4校 6学年の児童64名／中学校2校 3学年の生徒77名

### (3) 調査の内容

#### ①教科に関する調査

小学校6学年の児童【国語・算数】／中学校3学年の生徒【国語・数学】

#### ②生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査

## 2. 教科に関する調査の結果・分析

### (1) 本町における特徴的な傾向

児童生徒の解答状況について、全国比からみる教科別の強み・弱みと考えられる項目を取り上げて説明し、現状と課題を示しています。

強み・弱みと考えられる項目について、平均正答率と全国平均正答率と比較し、

「強み」＝平均正答率80%以上かつ全国平均回答率以上の問題

「弱み」＝平均正答率30%未満もしくは全国平均正答率よりマイナス10%の項目を取り上げて記述しています。

## <小学校国語>

### ■強み・弱みと考えられる項目

○強み	問題 1 三 津田梅子についての【スピーチ】の練習の囲みの部分で話す内容として適切なものを選択する。 平均正答率：87.5%（全国：81.0%） ⇒ 目的や意図に応じ、資料を使って話すことができます。
	問題 2 二 面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する。 平均正答率：89.1%（全国：87.5%） ⇒思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができます。
	問題 3 三（1）ア 丸山さんの【文章の下書き】の中の傍線部アを、漢字を使って書き直す。（ <u>ころがっている</u> ） 平均正答率：90.6%（全国：78.3%） ⇒ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができます。

△弱み	問題 2 四 面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く。 平均正答率：26.6%（全国：29.7%） ⇒目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができていません。
	問題 3 三（1）エ 丸山さんの【文章の下書き】の中の傍線部エを、漢字を使って書き直す。（ <u>げんいん</u> ） 平均正答率：64.1%（全国：79.0%） ⇒学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができていません。

### ■現状と課題

- ① 学習指導要領の内容で見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「話すこと・聞くこと」については全国と比較して高い数値を示しています。
- ② 評価の観点で見ると「知識・技能」及び「思考・判断・表現」ともに全国を上回っています。
- ③ 国語は、全国平均と比較しても高い力を示しています。

## <小学校算数>

### ■強み・弱みと考えられる項目

○強み	<p>問題 1 (2)</p> <p>500mを歩くのに7分間かかることを基に、1,000mを歩くのにかかる時間を書く。</p> <p>平均正答率：87.5% (全国：86.7%)</p> <p>⇒ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができます。</p>
	<p>問題 1 (4)</p> <p>午後1時35分から50分後の時刻を書く。</p> <p>平均正答率：92.2% (全国：89.2%)</p> <p>⇒ 条件に合う時刻を求めることができます。</p>
	<p>問題 1 (5)</p> <p>分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く。</p> <p>平均正答率：90.6% (全国：85.1%)</p> <p>⇒ 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができます。</p>
	<p>問題 2 (2)：直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ。</p> <p>平均正答率：81.3% (全国：72.5%)</p> <p>⇒ 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができます。</p>
	<p>問題 3 (2)</p> <p>学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ。</p> <p>平均正答率：92.2% (全国：90.7%)</p> <p>⇒ 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができます。</p>
	<p>問題 4 (1)</p> <p>余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く。</p> <p>平均正答率：85.9% (全国：83.0%)</p> <p>⇒ 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができます。</p>

## ■現状と課題

- ① 学習指導要領の領域で見ると、すべての領域において全国を上回っています。
- ② 評価の観点で見ると「知識・技能」及び「思考・判断・表現」についても、全国を上回っており、ともに力がついていることが読み取れます。
- ③ 算数についても全国より高く、力がついています。

## <中学校国語>

### ■強み・弱みと考えられる項目

○強み	問題 1 二 話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する。 平均正答率：96.1%（全国：92.5%） ⇒ 質問の意図を捉えることができます。
-----	--

△弱み	問題 2 一 意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する。 平均正答率：22.1%（全国：24.8%） ⇒ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができていません。
	問題 3 四 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く。 平均正答率：16.9%（全国：20.5%） ⇒ 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができていません。

## ■現状と課題

- ① 学習指導要領の領域で見ると、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均とほぼ同等です。「書くこと」「読むこと」については、もう少し力をつける必要があります。
- ② 評価の観点について見ると、「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」については、全国平均とほぼ同等、もしくは若干上回っていますが、「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」については、やはりもう少し力をつける必要があります。
- ③ 国語については、全国平均とほぼ同等です。

<中学校数学>

■強み・弱みと考えられる項目

△弱み	<p>問題 1  <math>(5x + 6y) - (3x - 2y)</math> を計算する                      平均正答率：66.2%（全国：77.1%）                      ⇒ 整式の加法と減法の計算ができていません。</p>
	<p>問題 6（3）                      四角で 4 つの数を囲むとき、四角で囲んだ 4 つの数の和がどの位置にある 2 つの数の和の 2 倍であることを説明する                      平均正答率：24.7%（全国：30.3%）                      ⇒ 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができていません。</p>
	<p>問題 7（2）                      与えられた表やグラフを用いて 2 分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する                      平均正答率：24.7%（全国：27.7%）                      ⇒ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができていません。</p>
	<p>問題 8（3）                      「日照時間が 6 時間以上の日は、6 時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由をグラフの特徴を基に説明する。                      平均正答率：9.1%（全国：11.1%）                      ⇒ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができていません。</p>
	<p>問題 9（2）                      錯角が等しくなることについて、根拠となる直線 FE と直線 BC の関係を記号を用いて表す。                      平均正答率：53.2%（全国：64.3%）                      ⇒ 錯角が等しくなるための 2 直線の位置関係を理解できていません。</p>
	<p>問題 9（3）  <math>\angle ARG</math> や <math>\angle ASG</math> の大きさについて、いつでもいえることを書く。                      平均正答率：28.6%（全国：28.8%）                      ⇒ ある条件の下でいつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができていません。</p>

## ■現状と課題

- ① 学習指導要領の領域で見ると、「関数」「資料の活用」については、全国平均並みの数値となっていますが、「数と式」「図形」については理解度が低くもう一度やっておく必要があります。
- ② 評価の観点からは、「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の3観点とも力をつける必要があります。
- ③ 数学に関しては、やや全国平均より低い数値を示しているところから、力をつけていく必要があるといえます。

### (2) 各教科の平均正答率の状況

平均正答率については、小学校は国語・算数とも全国平均より高い数値を示しています。中学校は国語・数学とも全国平均よりやや低い数値を示しています。

### (3) 各教科の無回答率の状況

無回答率が、小学校では全国に比べて低くなっています。中学校では、やや高くなっています。

- ・小学校国語・・・大台町 3.6% (三重県 3.7%、全国 4.3%)
- ・小学校算数・・・大台町 1.6% (三重県 5.4%、全国 5.4%)
- ・中学校国語・・・大台町 5.7% (三重県 4.3%、全国 4.4%)
- ・中学校数学・・・大台町 12.8% (三重県 9.9%、全国 11.2%)

無回答率は、小学校の全教科とも三重県・全国の平均よりも低くなっています。どの教科も最後まで諦めずに取り組んだ結果であると考えます。特に、小学校の算数は1%台であるので、いかにしっかり答えたかが伺えます。中学校は全教科とも三重県・全国の平均よりも高くなっています。補充学習等をさらに充実していく必要があると考えます。

### 3. 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

児童生徒質問紙は、児童生徒に生活習慣や学習の様子をアンケート形式で問う調査のことです。生活の諸側面や学習環境などについて質問があります。また、学校質問紙は、学校の指導方法に関する取組などについて質問があります。質問の中からいくつかを取り出してお示しします。

#### (1) 生活習慣について

##### 【児童生徒質問紙】

項目1：朝食を毎日食べていますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

⇒

児童 100.0%（三重県95.1%、全国94.9%）

生徒 96.0%（三重県93.0%、全国92.8%）

項目2：毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

⇒

児童 89.1%（三重県80.3%、全国81.2%）

生徒 79.0%（三重県79.2%、全国79.8%）

項目3：毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

⇒

児童 98.5%（三重県90.0%、全国90.4%）

生徒 88.1%（三重県92.2%、全国92.7%）

##### ■現状と課題

「朝食を食べているか」という問いに対して、児童生徒ともに全国平均を上回る結果を示しています。「寝る時間・起きる時間」については、児童は全国平均を大きく上回っていますが、生徒は「起きる時間」が全国平均よりやや低くなっており、起きる時間が一定せず、やや不規則傾向にある状況が見えます。基本的な生活習慣を身につけるため、今後も引き続き、生活指導や食育を推進していきます。

#### (2) 学習習慣について

##### 【児童生徒質問紙】

項目17：家で、自分で計画を立てて勉強していますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

⇒

児童 84.4%（三重県72.8%、全国74.0%）

生徒 55.3%（三重県65.0%、全国63.5%）

項目 18：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）（児童・生徒とも、1時間以上と答えた割合）

⇒

児童 82.8%（三重県59.6%、全国62.5%）

生徒 65.8%（三重県73.3%、全国75.9%）

#### 【学校質問紙】

項目 85：調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。（教科共通）（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

⇒

小学校100.0%（三重県93.2%、全国90.6%）

中学校100.0%（三重県88.1%、全国85.5%）

項目 86：調査対象の学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。（教科共通）（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

⇒

小学校100.0%（三重県95.9%、全国95.5%）

中学校100.0%（三重県90.1%、全国91.9%）

#### ■現状と課題

家庭での学習についての質問で、計画を立てて学習している割合は、児童が全国より高い数値を示していますが、生徒は低くなっています。「平日1時間以上学習をしている」割合も、児童が全国平均より高い数値となっています。家庭学習に取り組めていない児童生徒に家庭学習の必要性について、さらに指導していく必要があります。

家庭学習に対する学校の取組は、小中とも「家庭学習の与え方についての教職員の共通理解を図ること」や「家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えること」など、家庭学習の大切さを感じながら取組を進めている様子が伺えますが、生徒との隔たりが見て取れます。各小中学校とも「家庭学習の手引き」を見直し、保護者とともに家庭学習に取り組ませるよう働きかけてきています。今後も継続して取り組んでいく必要があります。

### （3）児童生徒の自己肯定感等について

#### 【児童生徒質問紙】

項目 6：自分には、よいところがあると思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 78.1%（三重県76.0%、全国76.9%）

生徒 80.3%（三重県77.5%、全国76.2%）



項目 11：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。  
（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 96.9%（三重県97.3%、全国96.8%）

生徒 94.8%（三重県96.3%、全国95.9%）

項目 12：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。  
（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 96.8%（三重県95.8%、全国95.5%）

生徒 92.1%（三重県95.7%、全国95.0%）

項目 13：学校に行くのは楽しいと思いますか。  
（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 92.2%（三重県83.2%、全国83.4%）

生徒 90.8%（三重県83.0%、全国81.1%）

#### 【学校質問紙】

項目 11：調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

⇒

小学校 100.0%（三重県99.2%、全国98.7%）

中学校 100.0%（三重県99.4%、全国98.6%）

#### ■現状と課題

児童生徒ともに、「自分には、良いところがある」と答えた割合は、全国平均を上回っています。自己肯定感の醸成が進んでいると考えられます。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問では、児童のポイントは全国と同等であるが、生徒のポイントは若干差があります。今後も引き続き道徳教育の推進をしていきます。

「学校に行くのは楽しいと思う」と答えた児童生徒の割合は、全国平均を大きく上回っています。学校質問紙からも教師が子どもを認め、褒めようとする姿勢が子どもたちにとって魅力的な学校につながっているのではないかと考えられます。

学校質問紙で、「学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行ったか」という、児童生徒との関係づくりを問う質問でも、各校それぞれに取り組んでいることが伺えます。このような取組を継続し、児童生徒との良好な関係をつくり出していきます。

#### (4) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

##### 【児童生徒質問紙】

項目 32：小学校 5 年生まで（中学校 1、2 年生のとき）に受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 73.5%（三重県 62.5%、全国 63.5%）

生徒 67.1%（三重県 61.6%、全国 62.0%）

項目 33：小学校 5 年生まで（中学校 1、2 年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 85.9%（三重県 78.2%、全国 78.2%）

生徒 80.2%（三重県 83.9%、全国 81.0%）

項目 37：学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

⇒

児童 85.9%（三重県 78.2%、全国 78.8%）

生徒 84.2%（三重県 78.9%、全国 77.8%）

##### 【学校質問紙】

項目 29：調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

⇒

小学校 100.0%（三重県 87.0%、全国 85.3%）

中学校 100.0%（三重県 89.4%、全国 86.0%）

項目 36：調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

⇒

小学校 100.0%（三重県 90.9%、全国 88.1%）

中学校 100.0%（三重県 86.7%、全国 86.9%）

## ■現状と課題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善については、どの項目ともほぼ全国平均より高い数値を示しています。児童生徒とも話し合う活動や自分の考えを発表したりする活動の問いには肯定的に答えています。

「学校質問紙」でも、全小中学校が肯定的に答えており、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」による授業改善について、各校で意識して取り組んでいることが分かります。

## (5) 家庭・地域・学校に関する状況

### 【児童生徒質問紙】

項目 23：新聞を読んでいますか。

（「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した割合）

⇒

児童 15.6%（三重県14.0%、全国14.8%）

生徒 13.2%（三重県10.9%、全国10.4%）

項目 24：今住んでいる地域の行事に参加していますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 86.0%（三重県65.7%、全国58.1%）

生徒 69.7%（三重県52.5%、全国43.7%）

項目 25：地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 59.4%（三重県50.7%、全国52.4%）

生徒 50.0%（三重県46.9%、全国43.8%）

## ■現状と課題

「新聞」を読む割合は児童生徒とも全国より高い数値を示していますが、少ないのが現状です。新聞を見ない児童生徒は、「テレビ」や「インターネット」でニュースをみているようです。だんだん状況が変わってきていると言わざるを得ません。

「地域」との関わりでは、「地域の行事」への参加率は、児童生徒とも全国平均を20%以上超えています。各校とも、「郷土愛を育む教育」を推進しています。過疎地である大台町では、子どもたちが地域の良さ、地域の人々の温かさに触れ、地域に愛着を持つ活動が大切であり、またそのための活動に各学校が取り組んでいます。その結果の現れと考えられます。今後も地域に根ざした取り組みを進めていくとともに、地域のことを考えさせることもしていかなければならないと考えます。

## (6) ICTの活用等について

### 【児童生徒質問紙】

項目 26：小学校 5 年生までに（中学校 1、2 年生のときに）受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器を週 1 回以上使用しましたか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 28.1%（三重県 43.3%、全国 40.1%）

生徒 40.7%（三重県 39.2%、全国 33.4%）

項目 27：あなたは学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、週 1 回以上使用しましたか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 31.3%（三重県 43.8%、全国 39.0%）

生徒 50.0%（三重県 49.5%、全国 34.8%）

項目 28：学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 94.0%（三重県 95.0%、全国 94.5%）

生徒 90.8%（三重県 93.5%、全国 93.2%）

### 【学校質問紙】

項目 70：あなたの学校ではコンピュータなどの ICT 機器を活用して「教職員間の連絡」を行っていますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

小学校 75.0%（三重県 79.4%、全国 78.1%）

中学校 50.0%（三重県 85.4%、全国 80.6%）

項目 71：あなたの学校ではコンピュータなどの ICT 機器を活用して「教職員と児童（生徒）がやり取りする場面」を設けていますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

小学校 25.0%（三重県 60.9%、全国 44.7%）

中学校 100.0%（三重県 65.6%、全国 41.5%）

項目 72：あなたの学校ではコンピュータなどの ICT 機器を活用して「児童（生徒）同士がやり取りする場面」を設けていますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

小学校 0.0%（三重県 42.9%、全国 30.1%）

中学校 50.0%（三重県 44.4%、全国 25.8%）

項目 73：あなたの学校ではコンピュータなどの I C T 機器を活用して「教職員と家庭との連絡」を行っていますか。

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

⇒

小学校 25.0%（三重県 32.6%、全国 39.6%）

中学校 50.0%（三重県 35.7%、全国 43.9%）

項目 74：あなたの学校ではコンピュータなどの I C T 機器を活用して「児童（生徒）が一人で活用する場面」を設けていますか。

⇒

小学校 75.0%（三重県 80.3%、全国 74.6%）

中学校 100.0%（三重県 76.2%、全国 62.6%）

## ■現状と課題

G I G A スクール構想による 1 人 1 台端末を配布した直後の調査ということもあり、現状は本調査時点から大きく変わってきています。各小中学校においては、情報教育担当者を中心に、会議や研修を重ねています。また、8 月からは I C T 支援員を配置しました。I C T 支援員を各校へ派遣し、I C T 機器の環境整備、操作支援などを通じて、校内研修や研究授業を円滑に実施できるよう学校をサポートし、I C T 教育の充実を目指します。今後は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に備え、オンライン学習を含めた I C T の活用について、注力していく必要があると考えています。

## （7）去年の新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休校について

### 【児童生徒質問紙】

項目 64：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強に不安を感じましたか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 57.8%（三重県 54.3%、全国 55.2%）

生徒 59.2%（三重県 62.6%、全国 62.8%）

項目 65：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 78.1%（三重県 64.7%、全国 64.6%）

生徒 42.1%（三重県 42.8%、全国 37.6%）

項目 66：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

⇒

児童 76.6%（三重県64.2%、全国63.1%）

生徒 56.5%（三重県51.0%、全国48.4%）

#### ■現状と課題

臨時休業中においても計画的に学習したり、規則正しく生活したりできた児童生徒の割合が多かったことは、平時からの学校の指導の成果と言えます。ただ、勉強に不安を感じた児童生徒の割合が6割近くあったことについての対策として、今後、危機管理の一環として、ICTの活用も含めた備えをさらに強化していきます。

## 4. 大台町におけるこれまでの取組

- 「大台町学校教育の方針」の策定と各学校での具体化した取組
- 大台町小中連携教育推進会議における、CRT学力検査分析結果や学力向上の取組交流
- 大台町小中連携教育推進会議における悉皆による研修会の開催（学力向上・保障にむけて オンライン）
- 指導主事による学校訪問と授業研究・事前事後研修会における指導・助言
- 各小中学校にALTを配置し、英語教育を充実
- 町の図書館司書と連携した資質向上の取組

## 5. 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

### （1）わかる授業づくり

- ①すべての児童生徒が、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できる授業づくり
  - ・必要な知識・技能について、しっかりと教えます。
  - ・つまずきやすい内容を事前に把握し、確実な習得を図るための繰り返し学習を行います。（CRT検査の活用）
  - ・一人1台端末を積極的に活用します。
- ②「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行い、思考力・判断力・表現力を育む授業づくり
  - ・問題解決的な学習の基本的な取組を進めます。
  - ・他の考えを受け入れて、判断する力を育みます。
  - ・目的や相手に応じて話したり、聞いたりする力を育みます。
  - ・資料やグラフ・表を読み取る力を育みます。
  - ・端末を活用して自分の考えを広げたり深めたり、資料を使って表現できる力を育みます。

・目的に応じて資料を読み、自分の考えを書いたり、理由が分かるように書いたりする力を育みます。

### ③「見通す・振り返る活動」を重視した授業づくり

・めあての提示の工夫、例えば「日常の生活場面からの問題提起」「驚きや感動を与える導入」「既習事項との関連(習得した知識・技能の活用)に気付く導入」授業等を行います。

・補充的・発展的な学習指導の充実を図ります。

・引き続き振り返る活動について、その時間の確保に努め、学力定着につながるあり方を工夫していきます。

## (2) 研修等の充実

### ①研修の充実とP D C Aサイクル

習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の研修を充実させ、学校の教育活動に学力向上のP D C Aサイクルを無理なく位置づけます。

### ②小中連携教育推進会議での交流

小中連携教育推進会議において、全国学力・学習状況調査、C R T検査の分析結果や学力向上の取組みの交流を継続することにより、各校でのより有効な授業実践につなげていきます。

## (3) 学習習慣等の確立

### ①家庭との連携

これまで小中連携教育推進会議において「大台町家庭学習系統表」を作成してきました。引き続き、これを活用しながら自主的な学習習慣の確立を図るとともに、特に小学校段階からの学習習慣の確立(全国比小+10.4% 中-8.2%)を図るために、家庭と連携を図ります。

### ②「褒める」取組

全ての学校教育活動を通じ、児童生徒の自己肯定感、自己有用感を醸成(全国比小+1.2% 中+4.1%)していきます。また、家庭と連携し子どもを「褒める」取組を充実させていきます。